

様式第4号 (第5条関係)

平成31年4月10日

豊明市議会議長 殿

議員名 郷右近修

豊明市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定により、下記のとおり平成30年度政務活動費収支報告書を提出します。

政務活動費収支報告書

1 収入
政務活動費 150,000 円

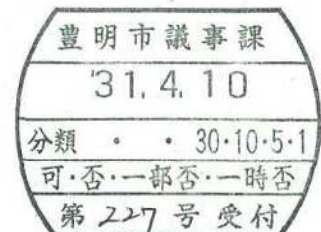
2 支出 9,600 円

(単位:円)

項目	金額	備考
調査研究費		
研修費		
資料作成費		
資料購入費	9,600	
広報・広聴費		
会議費		
要請・陳情等活動費		
その他の経費		
合計		

3 残金 140,400 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。



平成30年度 政務活動費による活動報告並びに会計帳簿

議員名 郷右近修

月	日	活動報告及び摘要	収入	支出	差額	領収 書 番号	調査 研究 費	研修 費	資料 作成 費	資料 購入 費	広 報・ 啓 蒙 費	会 費	要 請・ 陳 情 等 活 動 費	其 他
H30 4	27		150,000		150,000									
5	25	自治体問題専門紙見聞誌送料 4月から3月まで 12ヶ月分。		9,600	140,400	1				0				
		合 計			140,400									

(注) 本会計帳簿は5年間公開します。

平成30年度

領収書添付票

議員名 郷右近修

領収書 番号	調査 研究費	研修費	資料 作成費	資料 購入費	広報・ 広聴費	会議費	要請・講演 等活動費	その他
(注) 会計簿の領収書と同じ番号				○				

■按分による計算の場合

按分理由	金額	按分率	金額
	×	=	

※図書などを購入した場合は、購入した図書の題名がわかるように表紙等の写しを貼付して下さい。
 ※内訳等は必要に応じ付記して下さい。
 ※領収書が2枚以上あるときは重ならないよう注意願います。
 ※収支報告書と同時に提出する「領収書添付票」はコピーを提出して下さい。原本は議員が保存。

領収証 郷右近 修 様 No. _____

金額

¥ 9600円也

但「民権自治誌」及び「新報」 2018年4月～2019年3月分

2018年5月25日 上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

〒462-0845 名古屋市北区柳原

東海自治体問題

TEL・FAX 052-916-2540



コクヨ ウケ-95

(注) 保存期間5年



住民と自治 1

2019. JAN.

JUMIN TO JICHI MONTHLY

新年のごあいさつ 多数者のための政治 —その実現の年に— 岡田知弘

新春インタビュー 沖縄の尊厳と日本の未来 呉屋守将 金秀グループ会長に聞く

新春対談 ライオンの檻を意識してみませんか 榎 大樹 × 朝岡幸彦

特集 人権としての水

SDGsと水政策 仲上健一

水と人権 なぜ世界で多くの都市で水道再公営化が起きているのか 岸本聡子

持続可能な水道事業の再構築 —広域化、民営化への対案— 近藤夏樹

水道の民営化・広域化とわたしたちの暮らし 尾林芳匡

井戸枯れから始まった越前おおのの取り組み 水への恩返し〜Carrying Water Project〜 帰山寿章

新連載

ほげん詩の広場 ①保健師と感染症 中曾根万紀子

連載

おんなのRun@ 健康に生きる権利を子どもたちに 鈴木 薫

@NEWS 「福祉灯油」の実施と内容の拡充を 沢野 天

だれのためのコンビニ 第4回 地域経済に役立つコンビニに向けて —オーナー保護のためのルールづくり— 岩佐和幸

ス・ス・メ 「議会改革」実践 第10回「チーム議会」の政策提言とサポーター制度 寺島 渉

おいてよ 豊郷町 伊藤定勉



編集 自治体回廊研究会

住民と自治 (通巻669号)

発行人 長原 弘
編集人 谷口 節子



9784880378459

ISBN978-4-88037-845-9
C0031 ¥537E



1920031005371



▲水道ポンプ整備を行う名古屋市上下水道局職員(近藤重樹)、27分~から80分参照。

これからの自治体行財政をみすえ、「政策立案力」にみがきをかけます。

第46回 市町村議会議員研修会

日時: 2019年1月28日①・29日②
会場: 静岡商工会議所・レイアップ館幸町ビルCSA会議室(いずれもJR静岡駅徒歩圏内) お弁当: 1000円
受講料: 市区議会議員 30000円/同自治体問題研究所個人会員 28000円 (希望者のみ。周辺飲食店多数あり)
(税込) 町村議会議員 20000円/同自治体問題研究所個人会員 18000円 (税込・お茶付/1月29日昼食)
議会事務局・一般 18000円/同自治体問題研究所個人会員 15000円 定員: 180名(2日間通し参加のみ)

1日目 全体会 13:00~18:30(休憩・質疑含む) 講演① 13:00~16:00 講演② 16:20~18:30
講演① 2019年度政府予算案と地方財政の課題 静岡大学教授 川瀬麻子
講演② 「自治体戦略 2040 構想」と地方自治 専修大学教授 白藤博行

2日目 選科3コース 9:30~15:30(休憩・質疑含む) 選科A・B・Cのいずれかをお選びいただけます
選科A 国保の都道府県単位化と地域医療の運動を知る 三島短期大学教授 長友真博
自治体議員 神田敏史
選科B 減災まちづくりと自治体の役割 兵庫県立大学大学院教授 室崎益博
選科C 子ども・子育て支援新制度の現段階と今自治体で取り組むべき課題 京都造形大学教授 藤井伸生

申し込み先: ㈱自治体問題研究所 第46回議員研修会係 〒162-8512 東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4F 企画: 自治体問題研究所
Tel 03-3235-5941 Fax 03-3235-5933 E-mail: info@jichiken.jp http://www.jichiken.jp/ 主催: ㈱自治体問題研究所

二〇一九年一月一日発行(毎月一日発行)
昭和三十八年十月十日第三種郵便物認可

第42回 自治体政策セミナー in 東京

2019年、地方自治をめぐる運動の焦点

—「2040 構想」とその対抗軸を探る—

●日時 2019年2月2日①13:00~2月3日②正午 ●会場 貸会議室・内海 [東京学院ビル] 3階会議室
東京都千代田区神田三崎町3-6-15(JR 水道橋駅西口徒歩1分)

●期① 2月2日(土曜) 13:00~17:00 講師: 京都大学大学院教授 岡田知弘
徹底解明! 「自治体戦略 2040 構想」のねらいと対抗構想

●期② 2月3日(日曜) 9:00~正午 講師: 立教大学教授 芝田英昭
安倍政権の社会保障総改悪に対し、住民生活を守る自治体施策を考える

●参加費 一般参加 1万円 自治体問題研究所個人会員 8000円 ●定員 100人
1日のみ参加の場合、一般・会員ともに 6000円 ●主催 自治体問題研究所

詳細はチラシをご請求ください

自治体問題研究所 第42回自治体政策セミナー係 〒162-8512 東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4階
TEL 03-3235-5941 FAX 03-3235-5933
ホームページ http://www.jichiken.jp/ にも詳細など案内・申込書を掲載しています

定価(本体五三七円+税) 千70円
会員の購読料は会費の中に含まれます

編集 自治体問題研究所 〒162-8512 東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4F TEL03-3235-5941 FAX03-3235-5933
発行 自治体研究社 ホームページ http://www.jichiken.jp/ 電子メール info@jichiken.jp
郵便振替 00130-5-148857【ゆうちょ銀行〇九店(当座)0148857]/中央労金 田町支店(普) 1990204 ISSN 1343-6244

21世紀を地方自治の時代に

住民と自治

通巻669号

2019.1 付録

東海版 NO.407号 2018.12.10

東海自治体問題研究所

発行 自治体研究社

〒162-8512 東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4F
TEL03-3235-5941(代)・FAX03-3235-5933

発行人 福島 謙 編集人 谷口 郁子

〒462-0845 名古屋市北区柳原3-7-8

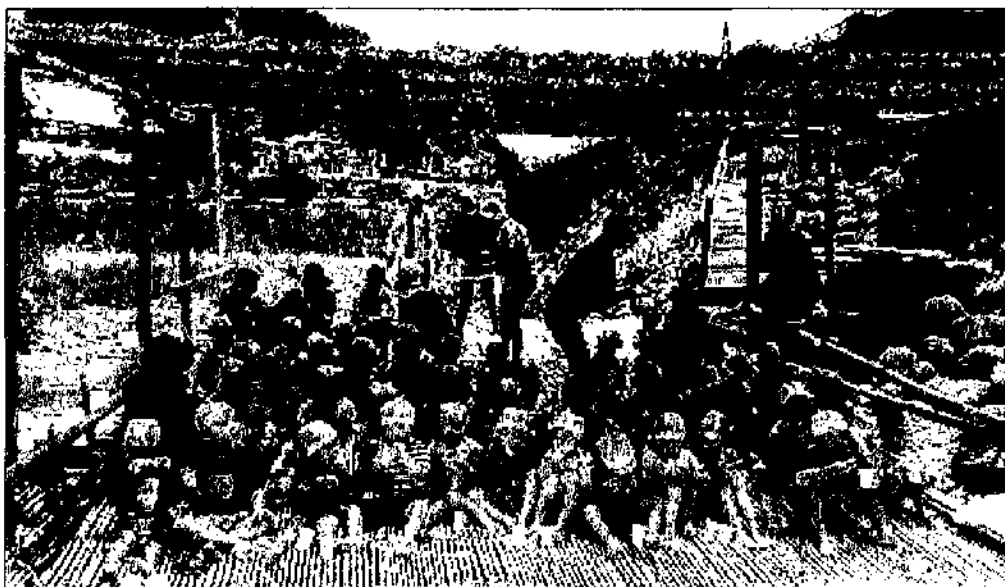
TEL・FAX052-916-2540

<http://www.tokaijitiken.web.fc2.com/index.html>

E-mail:tjmken@f6.dion.ne.jp

理事長 市橋 克哉 (名古屋大学教授)

編集責任 長谷川洋二 (事務局長)



澄ヶ瀬ヤナ

招待された地元の園児たちが薪で45分ほどかけて焼いた鮎一匹と朝ドラで有名になった五平餅を一本貰い美味しそうに食べていました。

このヤナは、矢作川の上流の上村川で愛知県と長野県の県境にあり地元の人より他県人の方が多くくらいで予約をしないといけないほどの盛況ぶりです。

(撮影地 恵那市上矢作町下)

撮影 大野好秋(日本リアリズム写真集団)

1月号の内容

市民自治をめぐるガバナンスの課題	2P
第2章 市民参加における「聞き合う」討議の手法・上	
変貌する自動車産業と地域経済の課題	10P
東海自治体問題研究所総会での大木一訓氏記念講演のレジメ	
研究会報告	13P
東海ローカルネットワーク	15P
行事案内	22P

●行事業内

◆ 第26回都市再生研究会

日時：12月23日（日・祝）13：30～
 会場：イーブルなごや 第2研修室
 論題：『希望の名古屋圏は可能かー危機から出発した将来像』（風媒社）
 塩見治人、井上康夫、向井清史、梅原浩次郎編
 第2編「中小企業や伝統産業でも生き残れる」の輪読会
 報告：大澤圭吾
 （大阪市立大学経営学研究科後期課程）
 ※ 終了後忘年会を予定

◆ 第27回都市再生研究会

日時：2019年1月20日（日）13：30～
 会場：イーブルなごや 3F第7研修室
 論題：『希望の名古屋圏は可能かー危機から出発した将来像』（風媒社）
 塩見治人、井上康夫、向井清史、梅原浩次郎編
 第1編の「2 地域社会の再生とNPO」
 第4編「NPO活動が地域社会を成熟させる」の輪読会
 報告：古田 豊（田園都市協会世話人代表）

◆ 第8回地域経済の将来を考える研究会

日時：2018年12月15日（土）
 13：30～16：00頃
 会場：名古屋市教育館（栄）4階
 第1研修室
 名古屋市中区錦三丁目16番6号
 TEL 052-961-2541
 地下鉄：「栄」下車10B番出口すぐ

議題

第1『希望の名古屋圏は可能か』（風媒社刊）で有松・鳴海絞産業の新生をどう扱ったのか（梅原浩次郎さん）
 第2今後の研究計画に関連してー（大木一訓さん）

- ◎ 有松・鳴海絞の新生への転機は「第1回国際絞り会議」（1992年、名古屋にて）である。世界の絞り文化から学んだことは何だったのか。「今までは、染色後にシワを伸ばして製品化していた。外国の関係者は手作業から生まれる「シワの造形」「布のゆらぎ」に注目し、それを有松・鳴海絞の魅力と考えた。絞りの凹凸を維持させるために、研究を重ね、形状記憶加工というハイテク技術を使ってシワを固定化することに成功。絞りの概念を覆し、絞りの新たな可能性を見出した。イッセイ・ミヤケやコシノ・ヒロコら日本を代表するデザイナーが続々とこの布を使った服を発表し、有松・鳴海絞の名が世界に知れ渡る。以来、四半世紀の実績は将来のメジャーを確信させる。
- ◎ 研究会の今後の取り組みについても意見交換の時間を設けます。
 ぜひご参加ください。